

# 今後の重点的な課題及び推進方策 (JASRI発表資料)

登録施設利用促進機関  
公益財団法人 高輝度光科学研究センター (JASRI)  
常務理事 田中 良太郎

2019年1月16日 科学技術・学術審議会 量子ビーム利用推進小委員会

## I. 地域全体の利用促進

## II. オープン・イノベーションの推進に関する取り組み

## (1) 地域研究基盤の一体的活用

- 兵庫県との連携
  - ニュースバルのビームラインとSPring-8の相互的利活用の可能性検討  
(例：軟X線領域 など)
- 兵庫県放射光ナノテク研究所等との連携
  - 研究所の先端設備、実験室等の有効活用の検討
  - 人材交流
  - 共同研究 など



## (2) 普及啓発、情報発信

- 地域ユーザー拡大のための取り組み
  - 研究会、講習会の共同開催  
例：兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス研究会（2018年度～）
  - 秋の学校における地域産業界からの参加枠確保 など

## (1) 有用な利用制度の整備

- 成果公開優先利用課題における産学連携利用枠の新設を検討（2019年B期より）
  - 優先利用の利用料は企業資金を想定
  - 終了時に成果専有への切換えも可能
  - 課題審査は簡素化※

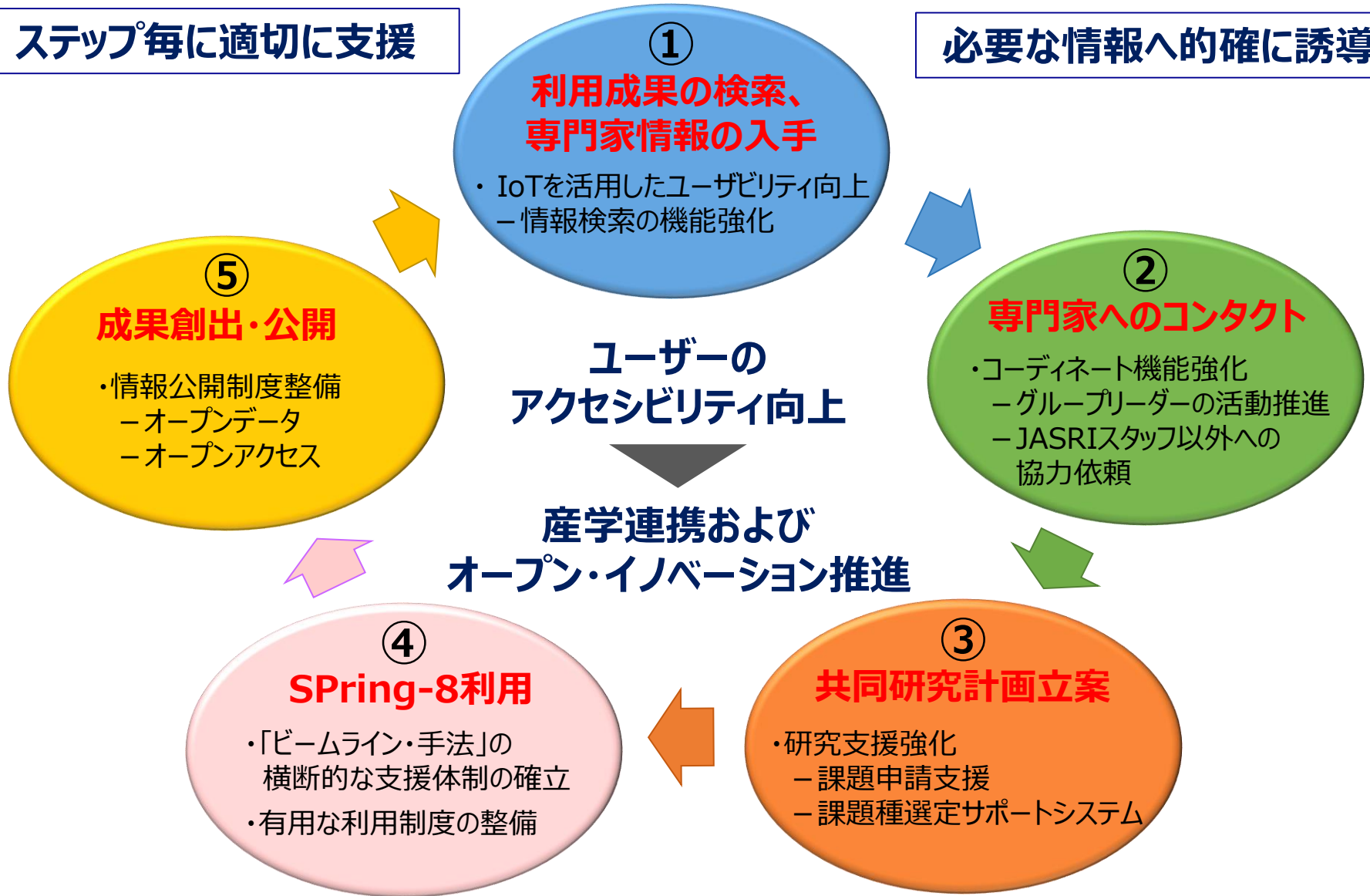
※科学技術的妥当性の審査基準である「期待される研究成果の産業基盤技術としての重要性および発展性」等については、産学連携に際しての企業における審議・判断結果を尊重し、二重審査は行わない。

## (2) 利便性向上の取り組み

- IoTを活用したユーザビリティおよびアクセシビリティの向上
  - SPring-8利用成果および専門家情報の検索ツールの機能強化
  - 研究内容に適した課題種選択サポートシステムの検討
- 「ビームライン・手法」の横断的な支援体制の確立
  - 先進技術活用による産業応用課題 など
- JASRIグループリーダーによるコーディネート活動の推進・強化
- JASRIスタッフ以外へのコーディネート活動の協力依頼
  - SPRUC、SPring-8利用推進協議会、パートナーユーザー など

ステップ毎に適切に支援

必要な情報への的確に誘導



※赤文字：ユーザーアクション、黒文字：JASRIの取り組み

ユーザーアクション		JASRIの取り組み
①	利用成果の検索、 専門家情報の入手	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoTを活用したユーザビリティ向上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>SPring-8利用成果、専門家情報の検索機能強化</li> </ul> </li> </ul>
②	専門家へのコンタクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネート機能強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>JASRIグループリーダーによるコーディネート活動の推進・強化</li> <li>JASRIスタッフ以外へのコーディネート活動の協力依頼</li> </ul> </li> </ul>
③	共同研究計画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究支援強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>課題申請支援</li> <li>課題種選定サポートシステムの検討</li> </ul> </li> </ul>
④	SPring-8利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ビームライン・手法」の横断的な支援体制の確立</li> <li>利用制度の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>成果公開優先利用課題における産学連携利用枠 など</li> </ul> </li> </ul>
⑤	成果創出・公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開制度整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンデータ</li> <li>オープンアクセス</li> </ul> </li> </ul>